

書籍『哲学随想』～真善美聖の探究の扉～ への推薦の御言葉

■ 木野親之(元経団連理事・元松下電送会長・NTTデータ顧問)

【推薦の御言葉】

塾長天川貴之先生は、早くから人類の将来に想いを馳せ、真善美聖の理念哲学について深く探究され、此の度、発刊される運びとなりましたこと、誠におめでとうございます。

「哲学」という言葉の由来は、ギリシャ語の「ピロソ피아」です。この「ピロ」とは「愛する」、「ソ피아」とは「智恵」、すなわち、「智恵を愛する」という意味で、天川先生の主張される「哲学随想」～真善美聖の探究の扉～には、一貫して「偉大な人間の智恵を愛する」心がにじみ出ています。

一人でも多くの皆様に御愛読賜れば幸いです。

■ 花岡永子(西田哲学会元理事・大阪府立大学名誉教授)

【推薦の御言葉】

本書「哲学随想」～真善美聖の探究の扉～は、現代の日本の人々に、是非共、読んで頂きたい。第二次世界大戦後の日本には、哲学や思想や宗教、倫理が消滅しつつあるが、本書は、そのような日本の現状を正してくれるであろう。人間の理性の働き

の核心となる真、善、美と、宗教に係わる聖とが、真摯に真正面から探究されているので、現代の日本人の必読の書と言える。

【帯びの推薦の御言葉】

カントを中心にし、更に西田幾多郎の「純粹経験」を根底にして絶対無の立場をも受容している本書は、哲学や宗教が欠如している現代の日本においては、必読の書といえよう。良くこなれた日本語で、古代ギリシアの哲学者プラトンから近代のヘーゲルまでの哲学と、日本の道元の『正法眼蔵』や更には神道にまで言及され、エマーソンやユング等の考えも論及されている。